



学校の教育目標達成に向けた「学校自己評価」と、その結果に対する学校評価委員等による「学校関係者評価」の結果をお知らせします。評価結果を生かした2学期の学校運営に、教職員一丸となって取り組んでいきますので、今後ともご支援・ご協力をお願いします。
★学校HPにもさらに詳しい情報を載せています。

1学期学校評価

学校の教育目標

確かな学力と豊かな人間性を身につけ、郷土米水津を愛する生徒の育成

目標及び重点的取組項目		学校自己評価			学校関係者評価	関係者評価を受けての改善策・取組
重点目標	項目	対象	1学期	成果と課題及び改善点	評価委員の意見	
仲間とともに知識・技能の習得に励む生徒の育成	①「学び合い」を取り入れた授業を毎時間行う。	生徒	96%	○具体的な授業イメージの共通理解を図り、各教科担当が三密を避けながら工夫して実践した。「そう思う」と回答した生徒は44%で目標に届かなかった。 ○コロナ禍の中での学び合いを取り入れた授業実践については、研修で情報共有を図りながら推進していきたい。	○コロナ対策等で、本来の学習が行えない中、大分県学力状況調査で全てにおいて県や市の平均を上回っていることは、中学校の学力向上対策の成果だと思う。 ○読書活動における生徒の自己評価が低いのも、個々の意識が高い結果だと思うので、ビブリオバトル等のこれまでの活動を継続してもらいたい。 ○防災教育にしっかりと取り組んでいると思う。登下校や家庭生活といった様々な場面を想定しての避難訓練が必要である。 ○生徒が少し遠慮しているため、「自分の思いや考え」を伝えにくいのではないかと感じた。	○全ての教科で毎時間学び合いを取り入れた授業を行い、主体性の育成を目指す。 ○学力向上に向けた、小中連携カリキュラムの作成に取り組む。 ○2・3学期には、下校時避難訓練の実施や地域避難訓練への参加も予定している。防災教育をさらに充実させたい。 ○ビブリオバトルの開催や家庭での読書活動調査を継続し、生徒が読書に親しむ習慣づくりを推進していく。
		保護者	88%			
		教職員	80%			
	②生徒による授業評価と授業づくり集会を学期1回以上実施する。	生徒	88%	○1学期に授業評価を1回、授業づくり集会を1回実施し、授業改善につなげた。定期テストで平均点6割以上の生徒は83%だった。 ○「米水津中学校のめざす授業」についてスタンダード化を図り、生徒による授業評価と合わせた授業改善につなげたい。		
		保護者	96%			
		教職員	100%			
	③ビブリオバトルを学期1回以上実施する。	生徒	76%	○7月に各学年ごとの予選と全校でのビブリオバトルを実施した。読書調査で月1冊以上読書をする生徒は83%だった。 ○読書活動の推進に向けて、2学期はビブリオバトルへの地域住民の参加協力を依頼する。		
		保護者	100%			
		教職員	80%			
仲間とともに知識・技能の習得に励む生徒の育成	①支援を要する生徒全員の個別の指導計画を作成し、学期1回評価・改善を図る。	生徒	92%	○支援を要する生徒全員の個別の指導計画を作成し、家庭・医療・SC・SSWとも連携しながら評価・修正を行っている。「そう思う」と回答した生徒は36%で目標に届かなかった。 ○「チーム学校」として個別の指導計画に則した組織的な支援を継続する。	○全校の生徒数は減少したが、子どもたちはよく頑張っている。特に、運動会は人数の少なさやコロナ禍での練習不足を感じさせない力強いものだった。中学生が幼・小を思いやり、リードしていると感じた。 ○普段からの人権教育や、先生方の暖かさや励ましの中で、認め合い、支えあっている生徒の姿が想像できる。 ○地域で、生徒が大きな声で挨拶をしてくれると、とても明るい気持ちになる。ただ、自ら進んで元気のよい挨拶をしているかについては、少し物足りなさを感じる。	○チーム学校として、関係機関とも連携しながら、小規模校ならではの個に寄り添ったきめ細やかな支援を継続する。 ○人権教育の推進に向けて、専門家を講師に招いての特設授業や人権講演会を計画的に開催する。 ○「先手あいさつ」の実践に向けて、生徒会と連携した取組を推進する。
		保護者	84%			
		教職員	100%			
	②道徳教育や人権教育において、学級担任は体験的参加型の手法を取り入れた授業を適宜実践する。	生徒	100%	○1・3年については学期1～2回、ロールプレイやワークショップ形式の授業を実施。「そう思う」と回答した生徒は64%で目標に届かなかった。 ○体験的参加型の手法を取り入れた授業実践は、校内研修等で今後モデルを示しながら推進していく。		
		保護者	80%			
		教職員	100%			
	③常時「ほめる」ことを心がけた生徒理解に努める。	生徒	96%	○教師アンケートで全教職員が「ほめる」ことを心がけた生徒指導を行っていると回答している。ほぼ全生徒が「そう思う」と回答した。 ○2学期以降、学校公開日の開催に向けて地域協育コーディネーターと連携を図りたい。		
		保護者	100%			
		教職員	100%			
主体的な態度で地域貢献に努める生徒の育成	①地域協育コーディネーターと連携し、適宜地域の「ひと・もの・こと」のよさに触れさせる。	生徒	88%	○コロナ禍のため思うような取組ができなかった。「そう思う」と回答した生徒は60%でやや目標に届かなかった。 ○生徒及び関係者の安全安心を第一に考え、2学期は状況を見極めながら「ひと・もの・こと」のよさに触れさせる取組を増やしたい。	○年齢の近い高校生・大学生や20代の若者との交流があると、自分の将来についてイメージしやすいと思う。(リモートなど)子どもたちが、将来米水津に残って生活していくための環境づくりも課題である。 ○米水津ならではののみかん農園作業やひじき収穫作業によって、米水津を誇れる気持ちは育っていていると感じる。地域の方や保護者とともに作業することはとても意義があるし、将来故郷を大切に思う心につもつなげよう。 ○学校だよりは、学校の様子がわかり、地域の方はとても楽しみに見ているが、A3版で大きな字だったら見えやすい。	○コロナ禍で活動は制限されるが、可能な限り地域と連携した教育活動を行ってきたい。 ○学校公開を再開して保護者や地域の方々に生徒の様子を見ていただくとともに、CS会議を活用し、保護者・地域と三位一体となった取組を推進する。 ○各種通信やフェイスブックで、引き続き生徒の活躍を発信していく。地区回覧については、A4サイズとの指定があるが、内容によっては振興局と協議していきたい。
		保護者	100%			
		教職員	70%			
	②総合的な学習の時間を中心に、体験的な活動を随時取り入れる。	生徒	88%	○ひじき採りや調理教室は中止せざるを得なかったが、みかん園作業は学習サポーターの協力を得ながら実施できた。「そう思う」と回答した生徒は68%で目標に届かなかった。 ○総合的な学習の時間を核とした単元配列表の見直しを行うとともに、教科横断的な探究活動を推進する。		
		保護者	96%			
		教職員	50%			
	③各種通信やフェイスブックなどを通して、随時学校内外へ積極的な情報発信を行う。	生徒	92%	○各種通信やフェイスブックなどで積極的に情報発信を行った。「そう思う」と回答した生徒は48%で目標に届かなかった。 ○9月に第1回の学校運営協議会を開催し、課題解決に向けた熟議を行う。		
		保護者	100%			
		教職員	90%			

★学校だよりの感想や、学校へのご意見・ご要望などがありましたら、お聞かせください。